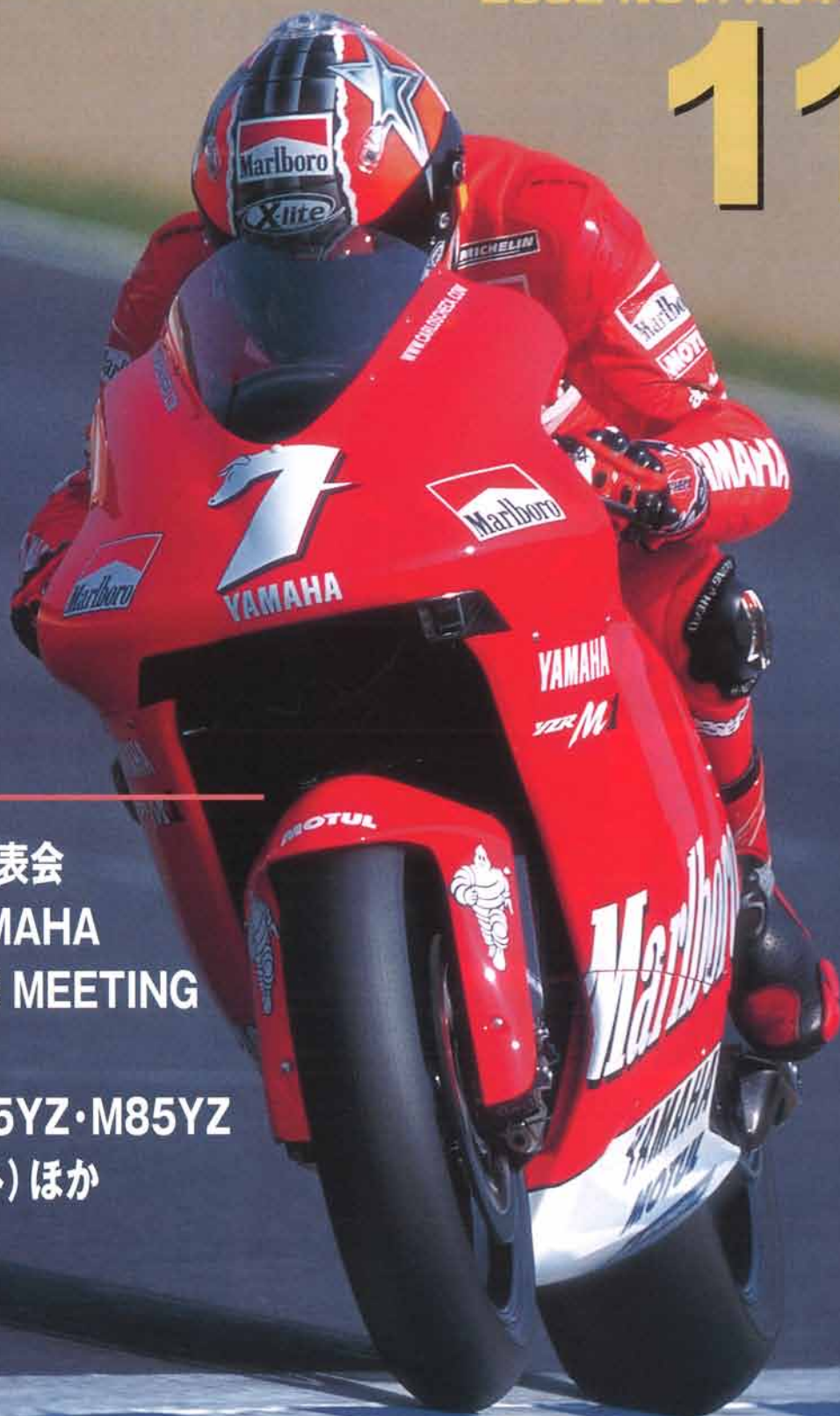


ヤマハニュース Yamaha News

2002 NOV. No470

11



What's
new

Passol プレス発表会
第2回 Club YAMAHA
MOTORCYCLE MEETING
パシフィックGP
Winforce M125YZ・M85YZ
(レーシングカート) ほか

MC FRONT LINE

Case Study

バイクショップ百景

リターンライダー&いきなりライダーの今
(株) 助川ダンス教室～オトナの趣味
YSP大濠

ヤマハオーナーだけの特別な1日 「Club YAMAHA MOTORCYCLE MEETING」 雨空を吹き飛ばして賑やかに開催！

ヤマハでは、ヤマハスポーツバイクオーナーのためのサポートプログラム「Club YAMAHA MOTORCYCLE」の一環として、1年に1度のビッグイベント「第2回Club YAMAHA MOTORCYCLE MEETING」を9月29日（日）、静岡県袋井市のヤマハテストコースで開催しました。

2年目となる今回は、会員の認知度が高まったことや、前日に開催されたヤマハ車オーナーズクラブの自主開催イベント「ヤマハクラブミーティング」から多くのメンバーが合流したこともあり、昨年を上回る約500名が参加。鈴鹿8時間耐久・Xフォーミュラクラス優勝を遂げた「Club YAMAHA MOTORCYCLE RACING」の藤森孝文監督や時永真、佐藤泰彦両選手、ヤマハレーシングチームの難波恭司監督、吉川和多留選手、藤原儀彦選手、成田匠選手らをゲストに、トークショーやチャリティーオークション、ファクトリーレーサー（YZR-M1・YZR500・YZF-R7）デ

モラン、トライアルデモなどで秋の1日を満喫しました。そして締めくくりは、総勢200台によるパレードラン。それぞれの愛車でゆっくりテストコースを周回した参加者は、手を振るスタッフに見送られて帰途につきました。

なおクラブヤマハ会員専用ウェブサイトには、当日のスナップ写真を400点以上も集めた壁紙アルバムやパレードランを収めたムービーがアップされています。ぜひご覧ください。



What's new NEW MODELS

販売価格：200,000円（専用充電器別売・15,000円）
商品についての詳細や最新情報は、
インターネットのスペシャルサイトに掲載
<http://www.yamaha-motor.co.jp/passol/index.html>



記者発表と同時に予約販売！
話題の「Passol」新登場

ヤマハは、新開発したエレクタリックコンピューター「Passol（パソール）」の記者発表会を、10月9日、東京・品川プリンスホテルに延べ111媒体約180人の報道関係者を集めて開催しました。

この商品は、社会的な環境保護、環境負荷軽減が求められるなか、電動ハイブリッド自転車「パス」によって培った制御技術とヤマハ独自のヒューマンインターフェイス技術を融合させて実現した、新しい都市型コンピューター。都市部に住み、トレンドに敏感で、お気に入りのモノに囲まれて過ごしたい気分的アクティブな女性たちをメインターゲットに、「ライト」「スマート」「クリーン＆サイレント」をモデルコンセプトとして開発しています。

そこで、この発表会には「二輪専門誌をはじめ一般紙誌や女性ファッション雑誌など幅広い媒体を招待。説明会に続いて行なった試乗会では女性記者・編集者も数多く、パソールの乗り心地を体験し、「すごく静かでスムーズに走る！」「オシャレな感じで、街に似あうと思う」「ソフトなイメージで、自転車とか家電品のような気軽さがある」と、笑顔で感想を語っていました。

販売方法は、今回、東京・神奈川・千葉・埼玉在住者を対象に500台限定・先行販売とし、この日の夕方から10月末までインターネットを通じて予約を受け付けましたが、来春には全国へ展開していく予定です。

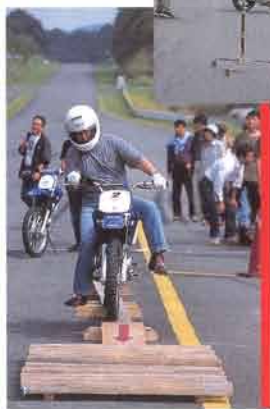


観る

ゲスト出演したヤマハ契約ライダーたちは、それぞれトークショーで楽しいエピソードをたっぷり披露。さらに藤原、難波、吉川の3選手がYZF-M1、YZF500、YZF-R7でデモンストレーション走行を見せると、成田選手は若手ライダーとともにハデなアクションライディングでトライアルの魅力をアピールした。また、会場内にはカスタムバイクやヒストリックレーサーなどの展示ブースも軒を並べ、参加者の目を楽しませた

参加する

コース上での子どもバイク教室やTMAXを使った選乗りコンテスト、トライアル体験コーナー、プロが撮るスタジオ記念写真・出張版、またステージではライダーお宝オークションやジャンケン大会など参加・体験型のアトラクションも盛りだくさん。テストコースを走るパレードランには、2組合わせて200台が参加した



What's new

DRESS UP PARTS

取り扱い：株式会社ワイズギア(TEL.053-443-2180)

※価格はすべてメーカー希望小売価格です。消費税、取付工賃は含まれません。

ファッションブルなエレクトリック通勤車「Passol」に、使い勝手のよいフロントバスケットと、快適性を高めるレッグシールド、クールメッシュシートカバーを用意しました。お客さまの用途に応じてお奨めください。



クールメッシュシートカバー
¥3,800
部品番号：90793-63077
カラー：ブラック
特長：着座面に10mm厚の立体網目構造を採用
優れた通気性でライディングを快適に演出



レッグシールド
¥7,800
部品番号：90793-56075
カラー：ダークスモーク
材質：PET



アルミバスケット
¥4,800
部品番号：90793-50088
サイズ：開口部手前 270mm
開口部奥 330mm
奥行 280mm
高さ 220mm

「Passol」の実用性・快適性を高める純正アフターパーツ



一般の試乗は、首都圏の下記3カ所と、ヤマハ主催イベントなどで随時行なう

- 「エクセルム」
東京都渋谷区神宮前1-12-6
- 「ヤマハ総合カウンター」
東京都港区三田3-13-16
三田43MTビル1F
- 「ヤマハマリンカウンター横浜」
神奈川県横浜市金沢区白帆4-4
ベイサイドマリナー内



セッティングに苦しみながらフロントローを獲得したチェカ#7は、表彰台こそ逃したものの5位入賞



「2スト・YZR500最後のレースを、好成績で終れずに残念」と中野 #56



スポット参戦の吉川#45は、初めてのYZR-M1に戸惑いながら、12位で出走

日本凱旋・パシフィックGPは
チェカ5位、吉川&M1も12位

鈴鹿での開幕戦以来、およそ半年ぶりの日本凱旋レースとなるロードレース世界選手権・第13戦パシフィックGP決勝が10月6日(日)に開催され、YZR-M1を駆るC・チェカがモトGPクラスで5位入賞。250ccクラスではYZR250に乗るS・ポルトが8位に入りました。

モトGP予選では、M・ピアッジが2位、チ

エカが4位とフロントローを獲得。表彰台も期待されましたが、ピアッジは4位走行中にタイヤトラブルでリタイア。チェカもスタートで遅れ、9位から5位まで追い上げたところでチェッカー。ワイルドカードで出場した吉川和多留も、初めて乗るM1に慣れるまもなく12位でフィニッシュ。YZR-M1の凱旋勝利はなりません。

また、次のマレーシアGPからM1に乗り換えるO・ジャックは、YZR500のラストレースで7位と健闘しています。



最初から最後までジャックと接戦を演じた阿部だが、終盤でかわされて8位

第13戦パシフィックGP

Moto GPクラス

- | | | |
|----|---------|--------|
| 1 | A・バロス | Honda |
| 2 | V・ロッシ | Honda |
| 3 | L・カピロッシ | Honda |
| 4 | 宇川徹 | Honda |
| 5 | C・チェカ | Yamaha |
| 6 | K・ロバーツ | Suzuki |
| 7 | O・ジャック | Yamaha |
| 8 | 阿部典史 | Yamaha |
| 12 | 吉川和多留 | Yamaha |
| 14 | J・ホプキンス | Yamaha |
| 16 | 中野真矢 | Yamaha |
| 17 | G・マッコイ | Yamaha |
| 以下 | DNF | |

250ccクラス

- | | | |
|----|----------|---------|
| 1 | T・エリアス | Aprilia |
| 2 | M・メランドリ | Aprilia |
| 3 | 高橋裕紀 | Honda |
| 4 | A・ニエト | Aprilia |
| 5 | E・アルツァモラ | Honda |
| 6 | R・ロルフ | Honda |
| 8 | S・ポルト | Yamaha |
| 12 | 中須賀克行 | Yamaha |
| 14 | 横江竜司 | Yamaha |
| 15 | J・ユレス | Yamaha |
| 16 | 松戸直樹 | Yamaha |
| 18 | S・ユージ | Yamaha |
| 以下 | DNF | |



Winforce M125YZ

ヤマハレーシングカート
Winforce M125YZ/M85YZ
¥718,000/¥618,000

カラー:ブルーメタリック(フレーム)+外装6タイプ

11月1日 新発売

- クロームモリブデン鋼管製の「WF-II」ミッション専用フレーム。
- 2003年モデルのYZ125/YZ85をベースにモディファイした専用エンジン。
- 前進6段の専用ミッションを装備(125/85共通)。
- 基本完成車以外に、タコメーター&デジタルメーター装備車、エンジン単体、エンジンキット(補機類含む)での販売も可能。
- 外装色はブルー(写真)、レッド、イエロー、ブラック、ホワイト、シルバーの全6色。



Winforce M85YZ

YZエンジン&6速ミッション搭載で
フォーミュラカー感覚の走行を実現

クロームモリブデン鋼管フレームに、水冷・2ストローク・6速ミッションエンジンを搭載。フォーミュラカー感覚のハイレベルな走行が楽しめるミッションカート、Winforce「M125YZ」「M85YZ」が2003年モデルになって新登場です。エンジンは、モトクロスYZ125/YZ85の2003年モデルをベースにモディファイし、マフラーなどの補機類も新設計。フレームは、定評ある「WF-II」をミッション専用でモディファイし、125/85共通仕様としています。

※ミッションカート=フォーミュラカーのようにシフトチェンジしながら走るレーシングカートで、通常のカートコースを走るものと、二輪・四輪のサーキットコースを走るものがある

参考出展モデルも充実！ 幅広いパsworldを紹介

11月22日(金)～24日(日)の3日間、東京ビッグサイトにて開催される「2002東京国際自転車展」は、国内外の有力ブランド、メーカーの最新モデルをはじめ、パーツ、アクセサリ、ウェアなど、自転車関連商品が一堂に集まるビッグイベント。昨年は11万7千人の来場者を集め、大いに盛り上がりを見せました。

今年、7回目の出展となるヤマハは「PAS THE ONLY ONE～始まりはPAS、これからもPAS」をブーステーマとして掲げ、幅広いラインナップを展示します。今年7月に発売以降、カラフルな車体色に乗り降りしやすいフレームの採用やリアキャリアの標準装備など、利便性に優れたモデルとして、特に若い女性に人気を得ている「パスマイルUカジュアル」をはじめ、ヤマハ、そしてライフスタイルマガジ「Free & Easy」とのコラボレーションによるラジオ番組：FMヨコハマ「YAMAHA GARAGE 134」から生まれたオリジナルビーチクルーザーなどを参考出品します。

会期：11月22日(金)～24日(日)
開催時間：午前9時30分～午後5時30分(最終日は5時終了)
会場：東京ビッグサイト/西1・2ホール及び屋外展示場
入場料：一般1,000円(中学生以下無料)



※画像はイメージです

ぜひこの機会に、展示モデルの数々を通して、電動ハイブリッド自転車のバイオニアメーカーとして業界をリードし続けてきたヤマハならではの優れた技術力をご体感ください。

ブースでは、普及モデルから高付加価値モデルまで11台の展示を予定

※画像はイメージです

パリダカ参戦マシンに見る ヤマハのチャレンジスピリット

ヤマハコミュニケーションプラザでは、11月23日まで「パリ・ダカール ラリーへの挑戦～20年の軌跡展」を開催。1979年第1回大会から連続20回出場、二輪部門では最多9回の優勝という経験を通じ、「エキサイティングな世界と新たな感動の創造」を目指すヤマハのチャレンジスピリットを表現しています。

20年間の歴史を「胎動期」「模索期」「挑戦期」「普及期」の4つのゾーンに分けた会場内には、それぞれの時期に活躍したマシン、レース解説やヤマハスタッフのインタビューをつづったパネルなどを展示し、世界最高峰マシンの創造による「人機一体」を追求しつづけたヤマハの姿を紹介。また本物のファクトリーマシン「XTZ850R」に自由に試乗、撮影できるコーナーや、ラリー参戦当時の貴重な資料を集めたコーナーも設置しています。一般公開日は残りわずか、ぜひお客さまをお誘いのうえご来場ください。

会場：ヤマハコミュニケーションプラザ2F
静岡県磐田市新員2500(ヤマハ本社内)
TEL：0538-33-2520
11月の公開日：11月9日(土)・23日(土)
(10時～16時)
入場料：無料

9月27日のオープニングには、ヤマハモーターフランスのオリビエ社長が来日。ヤマハ本社で社員、技術スタッフの前に、パリ・ダカールラリー参戦体験をもとに独自の「ヒューマンマシン哲学」についての講演を行った。



恒例のチャリティオークションでは、ゲストの難波恭司さん(藤原儀彦さん)の場で身につけたいウェアも出品され、大いに盛り上がりました。



年に1度のオーナーズクラブ懇親会！ 第8回ヤマハクラブミーティング

ヤマハ車のオーナーズクラブがお互いの親交をはかろうと自主開催している「ヤマハクラブミーティング」が、9月28日(土)、静岡県磐田市のヤマハコミュニケーションプラザで行なわれました。9年目となる今年は、全国から12クラブ200名が参加。自己紹介を兼ねてクラブの近況を報告しあい、トークショー、抽選会などで盛り上がりました。そして2日目は、袋井テストコースでの「Club YAMAHA MOTORCYCLE MEETING」に合流。自慢のマシンを展示したり、アトラクションに参加して年に1度のミーティングを楽しんでいました。



エンジンオイルの役割や、重要性を紹介し「エフェロシリーズ」の商品性をアピール

ヤマハでは、お客さまにより良いコンディションで乗っていただくため、二輪車には二輪車専用オイルを使いましょう」と、お薦めしています。それにあたって、4サイクルオイルの役割、二輪専用と四輪専用の違い、さらに、ヤマハ純正オイルがいかに最適な品質を実現しているか、という認識を深めていただくため、オイルパンフレットを製作。2003年1月より4サイクル全車の新車付属品に同梱し、ヤマハ純正二輪車専用4サイクルエンジンオイル「エフェロシリーズ」を推奨してまいります。

みなさまの店頭でも、ヤマハ純正オイルの品質を再度確認していただくとともに、お客さまの安全で楽しいバイクライフをサポートするうえで、オイルパンフレットを積極的に活用ください。

お客さまに安心と信頼のために！ 「エフェロシリーズ」を推奨しよう

バイクへの熱い情熱に導かれて
ロシア、欧州、北米の単独ツーリング達成!

今年1月にヤマハを定年退職された吉田滋さん(元コミュニケーションンプラザ館長は、1965年から68年にかけて13万6千キロに及ぶ「世界一周ソロツーリング」を成し遂げた経歴の持ち主。しかしその途上、国状によりロシア(当時ソ連)入国がかなわなかったという経緯から、今年6月、あらためてロシアを横断、そのまま欧州、北米を走破しようという壮大なソロツーリングに出発しました。

そしてスタート後、2カ月をかけて無事ロシア横断を達成。その後ヨーロッパ10カ国を巡り、9月の後半には北米に渡りました。その後カナダを経由してアメリカへ戻り、10月15日、ついに最終目的地であるロサンゼルスに到着。ヤマハの現地法人・Y.M.U.S.に立ち寄って、懐かしい友人らの盛大な歓迎を受けた吉田さんは、「6月19日に浜松を出発してから約4カ月を、大事なくここまで来れました。みなさ



今回の旅で、吉田さんの愛車ロイヤルスター・クラシックは、2万9千キロを走破した

オートマチックスポーツ「TMAX」が
プラモで登場!

スーパースポーツ並みの性能と、オートマチックの利便性を兼ね備えた「TMAX」が、プラモデルとして新登場しました。2001年のグッドデザイン金賞を受賞した洗練されたフォルムを忠実に再現。また、実車に近いカラーパーツを用いたことで塗装の必要がなく、接着剤を使用しなくても簡単に製作できるのが特徴。ライダーのフィギュアもセットされているので、店頭で楽しいライディングシーンを連想させるアイテムとしてぴったりです。

田宮模型 1/24 スポーツカーシリーズ No.256
「TMAXとフィギュアセット」
1,200円



ドレステレホン、エムズは12月まで
「Y-DO」への切り換えをお早めに!

ヤマハでは、さまざまな販売業務に関わる新しい情報ネットワーク「Y-DO」の導入を進めています。それにともない、今年12月27日をもって部品発注専用端末「ドレステレホン」「エムズ」の運用を終了いたします。今後、年末にかけてY-DOのお申し込みが集中すると移行がスムーズに行なえない場合もありますので、まだ導入されていないお店はぜひお早めにお申し込みください。

確かな知識と技術力でCSアップ!
「YTS講習会」をご活用ください

ヤマハ二輪車整備士講習会日程 (11月~12月)

| 会場 | 11月 | | | 12月 | | |
|-------|--------------|---------------|--------|-------|---------|----|
| | ベーシック | マスター | パス | ベーシック | マスター | パス |
| SC北日本 | | 26~28 (仙台) | | | 3~5(仙台) | |
| SC北関東 | | | 13 | | 10~12 | |
| SC西関東 | 12~14, 19~21 | | | | 10~12 | |
| SC中部 | | | 静、愛、石川 | | | |
| SC近畿 | 6, 13, 20 | | | | | |
| SC中国 | 12~14 | | | 10~12 | | |
| SC九州 | | | | | 3~5 | |

ベーシック:ヤマハスクーターエンジンのオーバーホール整備とそれに準ずる測定の実習
マスター:ヤマハ4サイクル4気筒エンジンのオーバーホール整備と基本的トラブルシューティングの実習
パス:パスに関する一般整備知識の実習

セカンドステージも好調
Jリーグ初の前後期完全制覇を狙う!

サッカーJリーグファーストステージを圧倒的な強さで制したヤマハFCジュビロ磐田は、Jリーグ初の前後期完全制覇に向け、セカンドステージも好位置をキープしています。

初戦、そして第2節の鹿島アントラーズ戦を勝利で飾り、勢いに乗るかと思われましたが、第3節で惜敗。その後は、得点ランキングトップ(21試合、20ゴール)の高原選手と、チームの大黒柱、中山選手の高い得点力、8試合で失点6(16チーム中2位)が示す堅い守りで4連勝。10月12日に行なわれた第8節は破れたものの、6勝2敗の2位で前半戦を折り返しました。

後半残り7試合、優勝に向けて全力でプレーする選手たちに引き続き熱い応援をよろしくお願いします。



10月16日に行なわれた日本とジャマイカとの対戦では、田中誠、服部年宏、名波浩、福西崇史、中山雅史、高原直泰の計6選手が日本代表に選出された

「改修案件情報検索システム」開設
対象車両の改修ご協力をお願い

日頃よりご協力いただいておりますリコールや改善対策、サービスキャンペーンの改修情報について、ヤマハ情報ネットワーク「Y-DO」上で「確認いただけるよう改修案件情報検索システム」を開設しました。

このページでは、システムに登録されている案件の詳細内容の確認や、各店の売上車両の改修状況を一覧で確認できるほか、フレームナンバーからその車両の対象案件や改修状況を検索することも可能です。定期点検や車検、修理などでお客さまの愛車が入庫した時に、該当していないかどうか、ぜひ一度チェックしてみてください。

大変ご迷惑をおかけしますが、今後ともみなさまのご協力をお願いします。



「車両状況」や「コメント」などのお客さま情報を表示・登録する機能も備えているので、管理用としても活用できる

全日本モトクロス125ccクラス YZ250Fで渡辺学今季2勝目

10月12日に行なわれた全日本モトクロス選手権第9戦(中国大会)、YZ250Fを駆る渡辺学が1A125ccクラスで今季2度目の優勝を飾りました。

第7戦、8戦、続けて各ヒートで2位、3位を獲得しながら、後一步のところで優勝を逃し、悔しさを露にしていた渡辺。今大会もヒート1はトップ集団で激しいレースを展開しますが、転倒により11位に終わります。しかし続くヒート2、「1A250のレース展開をみて、自分も後半勝負と決めていた。小島選手に抜かれてからも、相手との差より自分のタイムに注意して走っていたら、トップが近づいてきた」という言葉どおり、16周目でトップに浮上。そのまま第3戦以来の今季2勝目を挙げました。久々の優勝に嬉しさを隠せないようでしたが「最終戦も優勝を狙って走りたい」と、最後にかける意気込みを語りました。



シリーズランキング3位の渡辺と、2位の小島との差は15ポイント。最終戦での逆転を狙う

ピアッジがYZR-M1で今季2勝目！ 中野真矢、ジャックはYZR-M1デビュー

Moto GP第14戦・マレーシアGPで、マールボロ・ヤマハ・チームのM・ピアッジが今季2度目の優勝を果たしました。

予選を2位で通過したピアッジは、決勝でもバロスに続いて2位をキープ。レースが動き始めた中盤に、後方から激しいプレッシャーを受けながら、バロスをかわしてトップに立つと、その後はロッシ、バロス、宇川のホンダ4ストローク3台の追走からトップを守り抜き、そのままファーストチェッカーを受けました。

「とってもハッピー。今シーズン一番と言ってもいいほど

楽しいレースだったから余計に嬉しいんだ。はじめはバロスの後の2位につけていたが、ロッシと宇川に追いつかれそうになったため、バロスを抜いて前に出た。ところがその後の



この優勝でシリーズランキング2位に再浮上したピアッジ

バトルが凄まじく、ピットボードは+0.0や+0.2ばかり。こうした状況では集中力のキープが難しく、本当にタフなレースだった。来年このチームを離れるというのにチームのみんなが僕のために全力を尽くしてくれた。今日の勝利をチームとヤマハに捧げたい」と、喜びを語りました。

また、ゴロワーズ・ヤマハ・テック3の中野真矢とO・ジャックが、このレースから新たに4ストロークマシンYZR-M1で出場。残念ながらジャックは3周目にリタイアしましたが、中野はマシンの限界を探りながらの慎重なライディングで周回を重ね、YZR-M1での初レースを6位入賞で飾りました。



「M1で初めてのレースなのでどこまで攻めているのかよくわからなかったが、中盤頃からようやく少し慣れ、マシンのスライドのさせ方、ライン取りがわかってきた。貴重なチャンスを与えてくれたヤマハにお礼を言いたい」と中野

■シリーズランキング

Moto GP (第15戦終了時)

| | | | |
|---|--------|--------|-----|
| 1 | V・ロッシ | Honda | 325 |
| 2 | M・ピアッジ | Yamaha | 199 |
| 3 | 宇川徹 | Honda | 198 |
| 4 | A・バロス | Honda | 179 |
| 5 | C・チェカ | Yamaha | 141 |
| 6 | 阿部典史 | Yamaha | 123 |

WGP250 (第15戦終了時)

| | | | |
|---|----------|---------|-----|
| 1 | M・メランドリ | Aprilia | 273 |
| 2 | A・ニエト | Aprilia | 241 |
| 3 | R・ロルフ | Honda | 199 |
| 4 | T・エリアス | Aprilia | 172 |
| 4 | S・ポルト | Yamaha | 172 |
| 6 | F・バッタイーニ | Aprilia | 133 |

WSS600 (最終戦終了時)

| | | | |
|---|---------|----------|-----|
| 1 | F・フォレット | Honda | 186 |
| 2 | 藤原克昭 | Suzuki | 181 |
| 3 | S・シャンボン | Suzuki | 162 |
| 4 | P・カソリ | Yamaha | 128 |
| 5 | A・ビット | Kawasaki | 126 |
| 6 | C・ケルナー | Yamaha | 94 |

ヤマハ提供 BSデジタル番組 「75mph」 放映日程

BSデジタル放送によるヤマハ提供番組「75mph」では、自分の価値観を大切に生きる「人」にスポットを当て、その人とともに豊かな時間を創出するパーソナルビークルを表現しています。11月も以前好評いただいたものを再放送しますので、見逃してしまった方はこの機会にぜひご覧ください。BS FUJI/毎週日曜22:55~23:00(再放送は毎週水曜11:55~12:00)放映

| 日程 | 登場人物 | 登場商品 |
|--------|--------------|-----------|
| 11月 3日 | 田中ユキ | MC (日本) |
| 11月10日 | クラハカズユキ | MC (日本) |
| 11月17日 | ウエノコウジ | MC (日本) |
| 11月24日 | クリスティアーナ・クーリ | MC (イタリア) |

WMX500 (最終戦終了時)

| | | | |
|---|----------|--------|-----|
| 1 | S・エバーツ | Yamaha | 268 |
| 2 | J・スメッツ | KTM | 229 |
| 3 | F・ガルシアピコ | KTM | 225 |
| 4 | M・ベルブーツ | Yamaha | 222 |
| 5 | A・バルトリーニ | Honda | 154 |
| 6 | Y・デマリア | KTM | 121 |

WMX250 (最終戦終了時)

| | | | |
|---|----------|----------|-----|
| 1 | M・ビション | Suzuki | 288 |
| 2 | J・コピンズ | Honda | 222 |
| 3 | P・ベイラー | Honda | 205 |
| 4 | J・ダブ | KTM | 177 |
| 5 | K・グンダーセン | Kawasaki | 167 |
| 6 | F・ボレー | Yamaha | 151 |

JRR SB総合 (第7戦終了時)

| | | | |
|---|-------|--------|-----|
| 1 | 渡辺篤 | Suzuki | 132 |
| 2 | 玉田誠 | Honda | 120 |
| 3 | 吉川和多留 | Yamaha | 115 |
| 4 | 辻村猛 | Yamaha | 107 |
| 5 | 武田雄一 | Honda | 85 |
| 6 | 民辻啓 | Suzuki | 58 |

JRR GP250 (第7戦終了時)

| | | | |
|---|-------|--------|-----|
| 1 | 嘉陽哲久 | Yamaha | 131 |
| 2 | 青山博一 | Honda | 113 |
| 3 | 小山知良 | Yamaha | 111 |
| 4 | 横江竜司 | Yamaha | 100 |
| 5 | 大崎誠之 | Yamaha | 88 |
| 5 | 中須賀克行 | Yamaha | 88 |

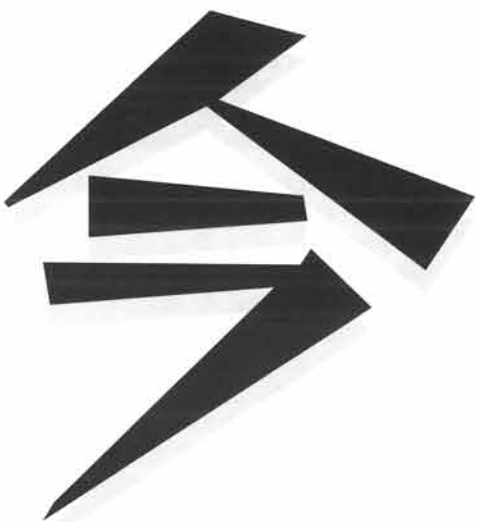
JMX250 (第9戦終了時)

| | | | |
|---|-------|--------|-----|
| 1 | 成田亮 | Suzuki | 264 |
| 2 | 田島久 | Suzuki | 203 |
| 3 | 小池田猛 | Yamaha | 200 |
| 3 | 高濱龍一郎 | Honda | 200 |
| 5 | 小田切一剛 | Honda | 194 |
| 6 | 増田一将 | Suzuki | 185 |

JMX125 (第9戦終了時)

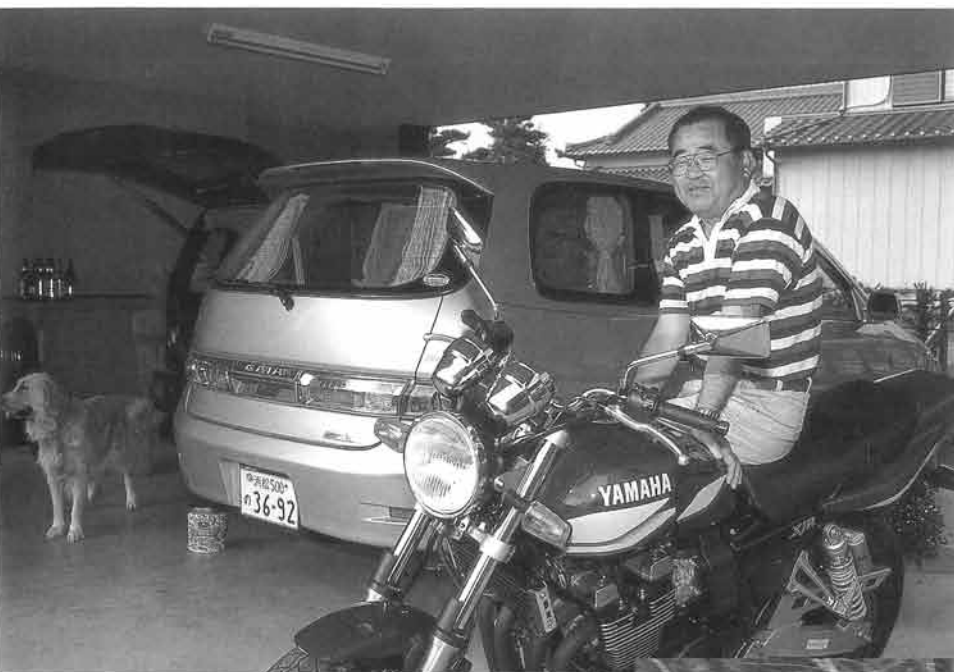
| | | | |
|---|-------|--------|-----|
| 1 | 加賀真一 | Suzuki | 276 |
| 2 | 小島太久摩 | Suzuki | 242 |
| 3 | 渡辺学 | Yamaha | 227 |
| 4 | 小方誠 | Honda | 207 |
| 5 | 芹沢直樹 | Honda | 205 |
| 6 | 戸田 蔵人 | Honda | 196 |

リターンライダー & いきなりライダーの



95年に初代マジエスティがデビュー、さらには'96年の二輪免許制度改正によるビッグバイクブームの追い風もあって、再びバイクに目覚めた中高年「リターンライダー」が急増。その後、一時の勢いこそ鎮静化したものの、中高年になって初めてバイクに乗り始める「いきなりライダー」とともに、バイクはオトナのよい趣味として定着してきた。

今回の特集は、そうしたリターンライダー、いきなりライダーの現状を、2人のお客さまへのインタビューを中心にレポートする。



「長くサラリーマンをやって来て、定年は名残り惜しく残念だが、その前に素晴らしい趣味と出会うことができた。2年後、第二の人生のスタートが楽しみです」



いきなりライダー

第二の人生を楽しむために
一念発起でライダーデビュー

窪野 衛さん

静岡県掛川市 / 58歳・会社員 / 大型二輪

**きっかけは友人たちへの宣言！
「ゴルフをやめてバイクに乗る」**

小学生の頃、威風堂々マラソンを先導する姿に憧れて、作文に「将来は白バイ隊員になりたい」と書いた窪野さん。しかし実際には、58年間の人生で「原付スクーターにちょうどだけ乗ったことがある」以外、まったくバイクと縁のない生活を過ごしてきた。

ところが、昨年12月に突然、「今日のコンペで100を切れなかったらゴルフをやめてバイクに乗るぞ！」と宣言。その言葉どおり、今年1月にさっそく近所にあるヤマハテクニカルセンターへ入校。普通二輪免許、さらには大型二輪免許までトントン拍子で取得してしまっただけ。

「きっかけはゴルフやめるぞっていう宣言ですが、代わりにバイクを選んだ理由はほかにあ

るんです。実は娘の彼氏が大変なバイク好きで、ウチへ来るたびにその話ばかりしている。しかも、彼のおじいさんは89歳でハーレーを乗り回しているというから、これは負けられないと思うじゃないですか(笑)。それに、あと2年で定年。第二の人生を楽しく過ごすために、気持ちシャキッとすると、緊張感のあることをしたいと思っていましたよ。これまで野球やソフトボールもやってたんですが、もう若い選手に番を譲らなきゃいかんし、ゴルフや新鮮味がない。何かないかと探していたときにバイクのことが思い浮かんで、よし、やってやるぞと決心したわけです(笑)。

思わぬとっぴな繋がったライダーとっぴの新たな交流

窪野さんが現在所有しているバイクは、XR400R。最初は、すぐハーレーのような大型バイクに乗れるというイメージが頭から離れなかったそうだが、

「初めて触る教習車の400ccもビックリするくらい大きかったし、なんだかほかにも車種がたくさんある。どれを選んでいいのかわからなくなって、教官に相談したら、最初は大型じゃなく400ccのコレがいいよって言われたんです。せっかく大型免許まで取ったんですが、見栄張つてムリをしては元も子もないですからね」

こうして今年4月に愛車を手に入れた窪野さんは、購入店・YSP袋井のツーリングに参加したり、ひとりりて出かけてみたり、春から夏、秋のツーリングシーズンを楽しんで過

ごしている。

「まっすぐに伸びる山道を走る時の、風の感触、空気の匂いがたまらない。思わずシールドを上げて歌を歌いたくなる。ああ、バイクに乗ってよかったなと感じる瞬間ですね」

バイクライフは、そんな感動を共有できる仲間がいればもっと楽しくなる。窪野さんの場合は、娘さんとその彼氏がきっかけだった。

「娘は夏にテクニカルセンターへ通い、普通二輪を取りました。私が彼氏とバイクの話をしていたら、自分も乗りたくなったんでしょうね。それで、ついこの間、愛知の鳳来寺山というところへ3人で行ってきたんです。そのうちと思っていた夢ですが、あつけないで実現してしまいましたね(笑)。

彼氏とは、9月にも2人で八ヶ岳へ出かけたんです。NMCAのスマイルツーリングってイベントなんですけど、そこではいろんな新しい経験をしました。驚いたのは、同じライダーというだけで、初対面でもすごく気軽に話せること。特に岐阜から来たという56歳の人とはずいぶんたくさん話をしました。最後には箆袋に住所を書いて交換したりしてね、本当に楽しかった」

思いがけないところでは、会社や仕事先の人たち。バイクに乗り始めてから、実は自分も...という話があちこち聞こえてくるようになった。

「こんなにバイク乗りが多いとは意外でした。仕事上の付き合い合っても、バイクの話が聞けると人間関係が微妙に変わって、仕事もスムーズに進む気がします(笑)。今度一緒に走ろうよって誘われることもあります。でもね、こっちはまだ初心者でヘタクソなのに、相手はみんなFJR1300だのドラッグスター1100だのVMAXだのって大型バイクを乗りこなしてる。一緒に走るとかえって迷惑かけちゃうと思って、最近では遠慮してるんです。早く追いつきたいですね」

夢は大型バイクで日本一周!

定年後、第二の人生を楽しく過ごしたいとバイクに乗り始めた窪野さん。しかし、バイクは危険を伴う乗り物だとも十分認識している。大型バイクに乗ることが当面の目標ではあるが、XR400Rの走行距離は半年でまだ2500km。ことさら焦る気持ちはない。

「あくまで定年がゴールなのではなく、新しい人生の始まり。1日でも長くバイクに乗っていたいと思うか

ら、安全には十分注意しています。11月にはまた娘やその友だちとツーリングに行こうって誘われているし、今とはもかく週末を楽しく、適度な緊張感を持って走りたいことを心がけています。

夢はね、日本一周をやりたい。温泉へ行ったり野宿したり、自由な時間を気ままに使用して走る。もちろん、その時こそ大型バイクと一緒にです」

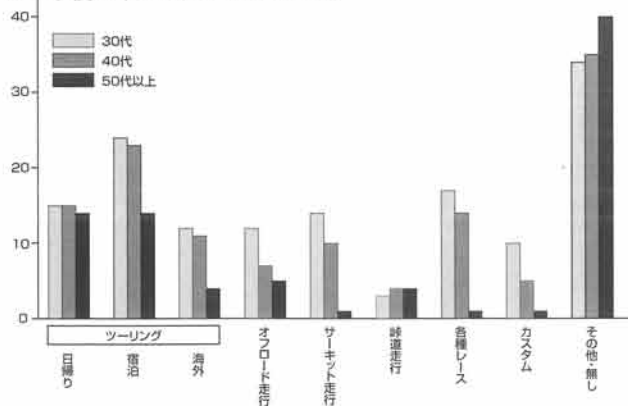


最初のロングツーリングは、娘さんの彼氏と2人で参加したNMCA「スマイルツーリングin八ヶ岳」。10月には娘さんも交えて3人で愛知県の鳳来寺山へ出かけた

ちょっとだけデータ

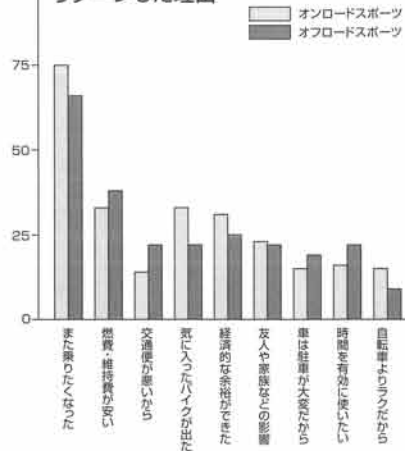
(社)日本自動車工業会が2年に1度行っている「二輪車市場動向調査」(調査対象者:2000年6月~01年5月までの新車購入者)から、中・高年ライダーに関連したデータを拾ってみた。

今後バイクでやってみよう



年代を問わず、「1泊以上のツーリング」を望む声ももっとも多い。50代以上では、日帰りを含めて国内ツーリングにほとんど一極集中している点が特長。次に目立つのは、30代・40代の「サーキット走行」。ロードレースが人気を得たレーサーレブリカ世代らしい一面といえる。レース志向の高さと関連して見えるが、「レース」は6競技を含まれたため、競技別に突出した様子はない。また「カスタム」志向は30代までが高い。「その他・なし」が多いのは、乗付スクーターやビジネスユーザーなども含まれるため。

リターンした理由



趣味性の強い乗り物らしく、理屈抜きの「また乗りたくなった」がトップ。その一方、オフロード車ユーザーでは「燃費・維持費が安い」「クルマは駐車場が大変」など、実用面の理由も多い。また「友人や家族の影響」という理由が多いのは、テクニカルセンターの「夫婦、父娘」入校という談話も裏付けている?

リターンライダー&
いきなりライダーの



MC FRONT LINE



ツナギやヘルメット、ブーツ、バッグなどバイク用品のほとんどはインターネットオークションで購入。「店で買うより安くて、品数も豊富で選びやすい。掘り出し物を探すのが、毎日の楽しみです」

がむしやらだった10代と バイクに距離を置いた20代

16歳で原付免許を取得し、半年後には中型二輪免許(当時)へステップアップ。高校生時代から400ccスポーツで走り回っていたという内藤さん。

「20歳くらいまでは、もうバイク一筋の生活でしたね。プレスライダーのアルバイトをして、そのお金はほとんどバイクに使ってました。最初GS400に乗っていたんですが、発

リターン&ステップアップ

ムリせず気張らず素直に バイクと向き合える今が楽しい

内藤 泰行さん

神奈川県横浜市/40歳・会社員/大型二輪

売されて間もないRZ250が憧れの的、ようやくお金を貯めて買ったんですよ」

ところが、念願のRZを買った後しばらくして、なんと免許取り消しを受けてしまう。「当初は、バイク命と思い込んでましたし、すごいショック。もちろん、欠格期間が過ぎたらすぐに免許を取り直そうと思ってました。でも、実際に1年間は長い。だんだん気持ちが萎えてきて、仕事などで必要なクルマの免許はすぐ取り直したんですけど、中型二輪を取り直したのは結局25歳を過ぎてからでした」

その後、新たに400ccロードスポーツを

オトナだからこそ抱える 不安な要素の解消で集客

ヤマハテクニカルセンター

石飛学 所長

テクニカルセンターでは、4年ほど前から中高年ライダーの増加に着目。「リターンライダーバイク教室」や「ゆとりと寛きの二輪免許取得特別企画」といったイベント、プランを企画するなど、積極的な取り組みを行ってきました。

その結果、入校者全体がやや増加傾向にあるなかで、3年前は年齢構成比率5%に満たなかった40歳以上の層が昨年11%まで伸長。今年はさらに伸びると予想しています。内訳は、3分の1が大型二輪で3分の2が普通二輪の受講者。単純には言い切れませんが、普通二輪を初心者ライダーと捉えると、想像以上に中高年「いきなり」ライダーが多いんだなって気がしますね。

もちろん、こうした傾向はあくまでローカルなもので、全国や他地域の状況とは多少異なるかもしれませんが、しかし、潜在的な中高年需要を信じ、入校生を増やそうと努力して得た成果でもあります。

例えば、入校した方たちに話を聞くと、「昔乗っていたバイクに、身体が動くうちにもう一度乗りたい」「若いころ憧れたバイクへの思いをかなえたい」など、ノスタルジックな答えが多く返ってきます。しかしその一方で、身体的な不安や「いまさら教官にバカにされたくない」とか「若者たちに混じって教習を受けるのは恥ずかしい」といった意識が働いて、躊躇してしまう場合も多いそうです。

そこで我々は、日頃進めてきた「親し



手に入れ、さらにTDR250へと乗り継いだものの、内藤さんの気持ちは次第にバイクから離れ、子どもの頃から大好きだったクルマや飛行機などバイク以外の乗り物に情熱を傾けていく。

「完全にバイクを降りてしまったわけではありませんが、だんだんツーリングに行くこともなくなり、むしろアメリカで飛行機ライセンスのスクールに通ったり、外車のオープンカーを買ったりして、そっちのほうが楽しかった。特に結婚するまでの数年間は、ほとんどバイクを忘れていた気がします」

結婚して得た心のゆとりがバイクとの付き合い方を変えた

ところが、結婚を機に、内藤さんのバイクライフは再び活発さを取り戻し始める。

「男なら誰でもそうだと思いますけど、結婚する前は彼女にいいトコ見せたいっていう気負いがあるじゃないですか(笑)? 僕の場合それがクルマだったし、生活が彼女中心になってくるとバイクが入り込む隙間もほとんどなかった。だけど、結婚して約1年、だんだん気持ちにゆとりが出てきたというか、落ち着いたというか……。肩の力が抜けてくると、いまままで視界に入らなかったバイクが、また見えてきた。やっぱり自分はバイクが好きだったんだな、と素直に向き合えるようになったんです」

そして今年6月、何度挑戦しても取れなかった念願の大型二輪免許を取得し、XJR1200Rも手に入れた。

「普通はきつと逆ですよ。会社の仲間や友だちにも、結婚してバイクを止めたいという人が何人もいますし、よく聞く話ですから。その点、うちの奥さんは乗るなとか、買わないでとひと言も言わない。感謝しなきゃいけないですね」

それでも、会社勤めで妻帯者となれば時間的な制約も増え、日頃の通勤にバイクを

使うのが精いっぱい。大好きなツーリングにいくチャンスはさすがに少ない。

「奥さんも普通二輪の免許を持つてから、できれば2人で出かけたんですけど、あまり乗り気じゃないらしく……。マジエステイ? それならウンというかな(笑)。タンデムは、街のなかが怖いので止めています。むしろ高速度道路のタンデムのほうが安全かも。早く法改正が実現して欲しいですね。行きたいのは、昔よく走った東北方面かな。当時は距離を走ることが目的で、景色なんてちっとも見てなかった。今度はそのぶんじっくり見て、食べて、のんびり楽しみたいと思うんです」

情報も買い物もネット中心でも頼りになる店がほしい

10代のころまでは毎日のように近所のバイクショップに通い詰めた内藤さんだが、それ以後決まったお店はない。職業が機械のサービスマンなので、バイクのメンテナンスはほとんど自分でやってきたし、バイクに関する情報もほとんどはインターネットで取る。大型免許のスクールも、ネット検索で探してヤマハテクニカルセンターを選んだ。

「予備知識はまったくなかったんですが、ホームページの内容と、ヤマハブランドを信頼して合宿コースに申し込んだんです。その1週間をヤマハ本社周辺で過ごし、すっかりヤマハファンになっちゃいましたよ。今、ヤマハロゴの入った小物とか用品を集めるのが、ちよっとしたマイブームなんです(笑)」

XJR1200Rを買ったのは、神奈川で



愛車XJR1200RとBMW Z3のほかに、奥さま用のクルマと共用のグランドアクシス100を所有。「マジエステイも欲しいけれど、これ以上はムリかな。BMWを売れと言われても困る(笑)」



開催される大規模な二輪中古車展示会。バイク用品を買うのもネットオークション。あえてショップを避けているわけではないが、逆にわざわざ店頭へ足を運ぶ理由もなかったのだ。

「大型免許を取ったのは、特に欲しいバイクがあったわけじゃなくて、これがいって思ったときに免許の制限があつて買えないのがイヤだったから。掘り出し物を見つけて、これが欲しいと思つたら止まらないタチなんです(笑)。XJRも、たまたま展示会をぶらぶら覗きに行つて見つけたんです」

しかし最近では、頼りになるバイクショップがあれば、腰を落着けたいと思うようになった。

「一番の理由はメンテナンス。昔はお金がかつたから10円、20円を節約したくて自分でやつてましたが、やはり専門職の領域では技術的に限界がある。休日を全部バイクの修理でつぶすわけにもいきませんしね。手際の上さや対応の質など、同じサービスマンとしての立場で見ても満足できる店があれば、ぜひお付き合いしていきたいと思つています。優れた技術力にはお金以上の価値がありますから」



テクニカルセンターでは、中・高年と並んで女性ライダーの拡大にも注目。夫婦や父娘で連鎖反動的に入校するケースが意外に多いという

中高年受講者の笑顔やコメントを大きく使ってアピールしてきました。若者や女性たちと違ってプライベートな情報交換、コミュニケーションが少ない人たちのため、これでもかかっていうくらいアピールしないと届かないんです。

また、多忙な首都圏や中京圏のビジネスマンをターゲットに、つま恋宿泊をセットにした「週末免許」を企画。地元の教習所に通うより少し高くなりますが、混みあう土曜・日曜の教習スケジュールを優先的に確保できるし、近所の人や知り合いにはつたり出くわして恥ずかしい思いをせずすむと、喜ばれています。

これらのポイントは単純明快。中高年ならではの心理的な不安要素を解消し、背中をポンと押すようにきっかけを作つてあげること。みなさんのお店でも試してみたいかがでしょう。

みやすい。教習・接客をさらに徹底。社会経験の豊富な人たちにも好感をもたれるよう意識し、広告やパンフレット、インターネットホームページなどで教育、

大事にしてる？ 自分の愛車

Q. メンテナンスへの意識

◆ここまでは自分でヤル!◆

友達の修理まで引き受ける

宇治征英さん・32歳・会社員
④・1年・JOG

最初のうちはバイクショップの人が作業しているところを見せてもらって、どの部分までは自分でできそうか、だんだん覚えてきた。ショップの人もこっちが質問すれば丁寧に分かりやすく教えてくれたし。今は可能な限り自分でやっています。古いバイクを全部バラして組んだこともあり。失敗もありましたけど、いろいろイジったことは経験になっていっていると思います。

今はスクーターしか持ってませんが、仲間内でも僕がイジるのが得意なのは有名で(笑)、友だちのバイク修理は、僕が引き受けているほどです。

なんでもチャレンジ!でも、その後ショップへ

宇治征英さん・32歳・会社員
④・14年・TZR

何でも自分でやってみますね、とりあえず。メーリングリストに質問を投げかけたりと、今はネットでも情報を集めようと思えばなんとでもなるので、それらを元にはずは自分でやってみる。でも、タイヤやブレーキパッドの交換など、安全性に問題がありそうな箇所を自分でいじった時には、そのあといつもの行きつけのショップに必ず持って行きます。きちんとできているかどうか心配ですから(笑)。ショップの方もイヤな顔ひとつせずに見てくれるので、心強い。だからパーツなどは用品店より多少高くても、そのバイクショップで注文するし…。基本的なスタンスとして、修理関係はショップに、調整関係は自分で、といったところでしょうか。

そこが知りたいセールスポイント

Vol.8

販売に直結するセールストークやセールスポイントの糸口などを探ろうと、ユーザーに直撃インタビュー!今回はオイル交換やパーツ交換など、どの段階からショップに頼むのか、日ごろのメンテナンス状況について訊きました。

データ内:

- ・年齢
- ・職業
- ・所有免許
 (普): 普通自動車
 (大): 大型二輪
 (中): 普通二輪
 (原): 原付免許
- ・バイク歴
- ・所有バイク



ブレーキのオーバーホールにチェーリングやスプロケットの交換:

水沢毅さん・34歳・会社員
④・1年半・SR

実は昔、カートでさんざん遊んだクチ。その頃マシン整備でコツを覚えたから、二輪だつて自分で何でもやる自信がありますよ。工具も結構持つてるしね。まだバイク歴がそんなに長くないので、今のところはブレーキのオーバーホールとか、チェーリングやスプロケットの交換くらいしかやったことはありませんけど、機会があればもっといろいろやるつもりです。

カスタムには、あんまり関心はないですね。もっとしつとりした、僕みたいなオジサンでも似合つようなジミめのパーツが出てくれば考えますけど。タイヤだつて、ハデなパターンが多くて、ちよつとハズカシイかも。フロントムとかTTみたいな、昔っぽいパターンとコンパウンドのタイヤがあるといいんだけどな。

基本的に情報は雑誌とクチコミです。でも、自分と志向の合う友人ばかりでもないでしょ? だから、僕の欲しい情報をタイムイングよく提供してくれるようなバイクショップがあるなら、常連になりたいところですね。

自分でやれば愛着も増す

皆沢昭典さん・26歳・会社員
④・9年・SR400

今日、マフラーを換えてきたばかりです。これまでにハンドル、シート、テールを交換しています。次はどこをイジろうかな、と考える時間も楽しい。

行きつけは地元バイクショップです。ある程度はわがままを聞いてくれるので、こちらも「これ付けて」「これは自分でやりたい」と言いやすくありません。あまり手が込まなくて、自分でもできそうなパーツ交換は、できるだけ自分でやっています。工賃分を節約して次のパーツ代に回すため…。でもありますが、愛車を自分の手でカスタムすることで、より愛着が湧いてくるから、イジること自体が楽しいんです。そんな楽しみに気づいたのは、ショップの人がこちらの質問に親切に答えてくれたりしたからでしょうね。

だけど、私はイジるだけで満足はしていません。やっぱりバイクは乗って楽しめなきゃウソ。ツーリングが好きでよく出かけますが、最近はずりリング車門誌が充実しているので本屋さんに行くのも楽しみ。いろんな情報が盛り沢山に載っていて、手ごろな価格の雑誌をよく購入しています。

頼りになる友人がいる

山本久雄さん・34歳・会社員
④・15年・R1Z

結婚するまでは自由になる時間もたくさんあったし、それなりに自分でイジってたほうです。今でも「オイル交換くらいは自分でしたい」と思っているんですけど、最近は換えたオイルを捨てる場所にも困るご時世ですからね(苦笑)。トータルでみたら工賃だつてそんなに高くないし、ここ何年かは「バイク用品店でオイルを買ってそこで交換してもらう」というパターンが増えたかな。

バイクに関する情報源は、本屋でバラバラ見る専門誌くらいかな。定期的に買っているものはないのですが、立ち読みして面白そうなら購入しています。それと、バイク好きな友人の存在は大きい。彼のガレージに行けば、私の欲しいパーツはたいていあるし、彼自身、趣味で相当イジるので、とにかく何でも知っています。熔接だつて自分でやってくれるんですからね。私はいつも「分からないことがあったらヤツに聞く」ことにしています(笑)。

Impressions

◎大切な愛車だからなるべく自分の手で

◎バイクに明るい人の存在は欠かせない

できる範囲でなるべく自分で作業するという人には、面倒見の良いショップスタッフやバイクに詳しい友人・知人の存在が欠かせないだろう。彼等の情報や協力を得て、マシンの仕組みやメンテナンスを徐々に覚え、気付けばイジるという、乗る以外のバイクの愉しみ方にも気づく。そして自分で手を掛けた分、バイクへの愛着も強くなったという。また、メンテナンスを良く行なう人は、そうではない人と比べると、まめに情報収集している人が多い印象を受けた。



Case Study

他業界に学ぶ

Lesson 8



食事をした後、好きな音楽を流し軽くダンスを楽しむ。生活を彩る趣味の一つとしてダンスを普及させるのが助川氏の願いだ。最大の障害と考えているのが日本人に根強い「他者との比較による幸福感」。しかし「若い世代ほど『自分が楽しむ』ことが上手になってきた」と言う

社交ダンスには取っつきにくいイメージがあるのですが。

助川 それはきつと習い事やお稽古事という印象が強いからでしょう。日本では、お稽古事というتماز頂点に絶対的な権威が存在し、そこを指して級や段を上げていくスタイル。欧米から

オトナの

趣味とは

「楽しむのが下手」とはよく聞く日本人評。しかし「本来はそうではなかった」と異議を唱えるのは助川ダンス教室の助川友朗代表取締役。日本人は楽しむことに貪欲で、楽しいことは何でも積極的に取り入れてきたはずなのに、戦後の社会システムがそれをスポイルしてしまった、と話す。ダンスのように極めて快楽的な趣味にさえ「こうでなくてはならない」という決めつけ「他人との比較によって得られる幸福」が根強くあるという。若い世代を中心に価値観が多様化する今、大人の趣味はどうあるべきか――。

入ってきたダンスにも、その考え方を当てはめてしまっているんです。しかしそれはダンス本来の楽しさとは相容れないものなんですよ。ダンスはお稽古事ではない、ということでしょうか？

助川 ダンスの楽しみ方の一つとして、そういう側面があってもよいとは思っています。当スクールでも大きく分けてレッスンに2種類を用意していて、1つはいわゆるお稽古事の範疇に入るプライベートレッスン。担当の先生につき、発表会に出たり試験を受けるというものです。

しかしこのスタイルでは、どうしても金額的に高くなることや、平日の中行われることもあり、参加者の高齢化が進んでしまいました。また、取っつきにくさから新しい層を取り込むこともできません。

ところがもともと欧米ではダンスのプライベートレッスン自体がほとんどなく、同好の士が集まるサークル活動が中心なんです。ですから当スクールでも約10年前から「クラスレッスン」と

ANOTHER FOCUS

Case A 労働時間の短縮も「底」？

レジャー産業は有給休暇に期待

労働者1人当たりの年間総実労働時間は、平成12年には4年振りに増加。しかし平成13年には再び減少し、1848時間となっている(最短は平成11年の1842時間)。しかしその減少幅は少なく、時短の傾向としては「減速ぎみ」。週40時間制(週休2日)というシステムがほぼ浸透してきたことの表れと見られる。その反面、不況をはじめとする職場環境の厳しさを反映し、年次有給休暇の取得率は下がる一方。今後は有給休暇の取得率を高めることが、消費拡大やさらなる時短につながるものとして、余暇産業界は大きな期待を寄せている。



(株) 助川ダンス教室
代表取締役 助川友朗氏

1947年、助川五郎氏が「日比谷ダンス学園」として創立したダンススクールの老舗。'52年「助川ダンス教室」に屋号変更。助川友朗氏は、日本における社交ダンスレッスンの堅苦しさからの脱却を目指し、形にとらわれずダンスを楽しむドイツ発祥のレッスンシステム「クレアダンス」普及活動に動いている。ヤマハ音楽教室講師、東邦音楽講師。

銘打ち、平日夜にグループレッスンを行っていきます。生徒さん同士でコミュニケーションを図りながら、楽しく踊ろうというものです。

新規層の取り込みには成功しましたか？

正直言って苦労していますね。というのは、日本ではあまりにも「ダンス＝お稽古事」というイメージが根深いんですよ。

この根っこには、日本が戦後どんな道を歩んできたかが関わっていると考えています。年功序列や終身雇用、偏差値教育などが、趣味のあり方にも影響を及ぼしているんですよ。だから級や段をとることで自分のポジションを確認し、他人との比較でしか幸せを感じられないんですね。

でも、私などは自分が楽しければいいじゃないかと思うんです。ダンスなんてしよせんは遊びだし、人生を楽しくするためのエッセンスに過ぎないんですから。若い世代ほど、こういう考え方を受け入れやすくなってきていると思います。

教える側としては、級や段のような基準があった方が楽なのでは？

助川 「楽しむ」というのは個人の価値観なので、確かに教室としては手がかかります。ダンスの場合には、好きな音楽を見つけて、好きな踊りを見つけて、そして恥ずかしがらずに体を動かせるようになるための手助けが必要です。

しかしそれさえできれば、10人中8人の方は「面白い」と言ってくれますよ。ダンスを文化として根付かせるには、地道なようですが、こうして一人一人にダンスの楽しさに気付いてもらうしかないでしょう。そして我々は楽しむ

ための場を提供したいんです。

「欧米型の楽しさ」である

ダンスは、日本に根付くでしょうか？

助川 日本ほど外国のモノや文化を柔軟に取り込んでできた国は他にないでしょう。ファッションや音楽も、今やほとんどが欧米型と言ってもいい。だから趣味の楽しみ方や文化だって、欧米のものを取り込めるはずなんですよ。日本でも、今の親世代と子世代では、価値観がずいぶん変わってきています。少なくとも多様化はしてきている。

ただし、日本全体のシステムがそれに合わせてどんどん変わらなないと、せっかくの多様化の芽も摘まれてしまうんです。私にはダンスのレッスンのやり方しか変えることはできませんが(笑)。



まずは体を動かす楽しさから知ってもらうことが基本。ダンスにおいて最も取っつきにくさを感じさせるステップに関しても、教えるのはごく簡単な基礎的な技術だけで、楽しむことが最優先だ。パンフレットの作りも身近さを前面に押し出している



目標に向かって努力をする既存タイプのレッスンのほうが、教室としては生徒を囲い込みやすい。しかしダンス文化の定着を狙うと、「日常的に気軽に踊れる楽しさ」を知ってもらうことがより重要だ。結果的にダンス教室の役目は「同好の士が集まる場の提供」になっていくだろう

「助川ダンス教室の場合」

- ◎ダンスの趣味性を重視
- ◎教室の役目は「楽しむ手助け」
- ◎場の提供が将来的な理想像
- ◎親世代と子世代では考え方に開きがある
- ◎多様な価値観に対応できるシステム作り

Case C

経験するほど楽しさも増す

重要なのは常に「触れさせる」こと

日常的に余暇を楽しむ人ほど、旅行やアウトドア活動に対する欲求値が高い。2002年版レジャー白書にそんな調査報告がある。ふだんから身近なレジャーを楽しむ余暇経験値の高い人と低い人を比べると、経験値の高い人ほどさらなる大型レジャーへの欲求が高いのだという。このことをバイクに当てはめれば、年に1度のロングツーリングだけを楽しむ人よりは、通勤でも頻繁にバイクに乗る人の方が、バイクに関する潜在的な活動欲求が高いと言える。会話の中で乗車頻度をヒアリングすれば、より効果的なアプローチができるだろう。

Case B

賢い消費で生活を守る

若年層は「こだわりの一点豪華主義」

野村総研の調べによると、「生活を守るための消費」という意識が強まってきている。買い物等の消費行動にあたり「とにかく安く経済的なものを買う」という意識が、年齢層を問わず急増しているのだ。ユニクロや100円ショップなど、安さと品質を兼ね備えた商品の登場が背景だ。10～30代の若年層においては「自分の好きなもの、こだわりのあるものには積極的にお金を使う」、いわゆる一点豪華主義が目立つ。見栄に囚われず「自分の欲しい物を買う」ことは、無駄遣いを減らし結果的に生活を守る消費になっていると言える。

Why Motorcycle?

「なぜあなたは、ヤマハのバイクに乗っているのですか？」

Why YAMAHA?

モーターサイクリストRUN PLUS
【編集スタッフ】

入倉 さち子さん



「るなんて」って感じだった」
それでも入倉さんは諦めない。20歳の時、隠れて免許を取りに行き、お金を貯めてこつそりVTZ250を買った。父は絶句したけれど、いざバイクが来てしまっただけからは何も言わなかった。「あきれたんでしょうね」と入倉さんは笑う。

バイクに乗るのは特別なこと?

10代の頃、友人のバイクでタンデムを体験した。「こんなに面白いなんて。自分でも乗ってみたい」と入倉さち子さんは思った。しかし3ナイ運動が盛んだった当時、親が首を縦に振るはずはなかった。「特に父は古い考えの持ち主で、「女がバイクに乗

ようやく手に入れたバイク。うれしくて、どこを走っても楽しかった。ところが、楽しいことばかりではなかった。それは入倉さんが女性だったからだ。

「走っていると幅寄せされたり、嫌がらせをされたんですよ。いい加減こつちもアタマに来て、タクシーを蹴つ飛ばしたこともあった。黙っちゃいられなくて。今となっては力が入りすぎてたかな、と思うけど、当時はそれぐらいじゃないとバイクになんて乗ってられなかった」

ちょうど女性ライダー専門誌の人気なども重なり、女性がバイクに乗ることはブームになっていた頃だ。それでも世間の目は温かいものばかりではなかった。

「そういう状況は今もあまり変わっていないと思う。世間全般で見れば女性ライダーに理解を持つとうという人は増えてるけど、やっぱり絶対人口が少ないですからね……」

周囲の目はともかく、入倉さん自身の心境は変化してきている。

「以前までは『アレテレ乗ってられないわ!』という気負いがあったけど、最近はずっと普通にバイクと付き合えています。自分が楽しくて、自分が乗りたいから乗る。最近の女性ライダーもだいたいそんな感じになってきていて、バイクに乗ることは特別だっという意識も薄れてきてるんじゃないかな」

現在の愛車はセロー。乗りやすく楽。自分でも乗りこなせるし、オールマイティにどこでも行ける。そんな選択からも、肩の力が抜けた自然体のバイクライフが窺える。

Answer

「クセがない。けど、優等生すぎない」



【発行】八重洲出版
【発刊】月刊
【中心読者層】20代~30代
ツーリングや試乗会、イベントなど、ソフト情報を中心に紹介。モノだけに注目するのではなく、バイクを使っただけの遊びや楽しみ方を提案し、入門層にもエンターテインメントを目指している。リニューアル後は年齢層で2~3歳若返り、女性も増加しつつある。

スタイルにこだわり、セグメント化されたがるライダー



今年の6月号から、モーターサイクリスト誌がフルモデルチェンジし、「モーターサイクリスト・ランプラス」に生まれ変わりました。

バイクを買ってはみたものの、遊び方が分からずにいる層は、かなりのボリュームで存在するのではないのでしょうか。そういった方たちに遊び方を提案したり、ソフト情報を提供することで、より楽しいバイクライフを送ってもらおうのが一番の目的です。

ですから制作サイドとしては、オン、オフ、スクーター、フットジョブ、男女などのカテゴリーにこだわらず、バイクにまつわる多様なソフト情報をまんべんなく提供しようと考えていました。

ところがライダーというのは思った以上にセグメント化されたがるんですね(笑)。言葉ひとつとっても、「オレはバイクじゃない」「ライダーじゃない」という難しさがある。本質的にはそれほど違わないと思うのですが、スタイルへのこだわりは相当強いようですね。

まだリニューアルしてから数号ですが、そういった読者の反応を受けて、総合誌としてのバランスの取り方を考えていきたいと思っています。

モーターサイクリストRUN PLUS 岡本健一 編集長

外観

交通量が多い道沿いに面していることで、福岡市内から抜けてくる車線側に袖看板を出して店の存在をアピールしている。木枠に縁取られたシンボル壁には、マンションの外観と違和感のない煉瓦調素材を採用。人気モデルや注力モデルを展示して人目を引く店先のポーチは、一段高いステージ状になっており、これまでのバイクショップとは異なる、オープンカフェ風の様相を呈している。また、通りからでも店の奥まで見通せる明るさと、ドアを開け放った開放感で入りやすさを演出。



YAMAHA

YSP大濠

YAMAHA SPORTS PLAZA

バイクショップ
百景
全国販売店見聞録



イマドキの若者感覚で スタイリッシュな 雰囲気を出し出す



目の前がバス停のため、乗り降りする人のみならず、乗車中の人の目も意識。さらに、直ぐ先に交差点があるので店前に止まる車も多く、店先の展示モデルの強化はもちろん、外からでも店内奥まで見通せるよう心がけている。夜ともなると明るい店内がくっきり浮かび上がって、店の存在がより際立つ

YSP大濠

福岡県福岡市中央区鳥飼1-4-42

門松秀明社長
富松和博店長

Profile

略歴 1987年2月創業以来、学生が多いという立地環境を活かし、若者に人気の車種を取り揃えるなど、市場動向に機敏に反応した営業展開で、着実に店の認知度を高めてきた。福岡市内に姉妹店のYSP友泉があるので、自然と各店舗のセグメント化が図られており、学生をメインターゲットとする環境にあるYSP大濠さんは、若者の需要が高いカスタム車両を中心に取り扱っている。ここ最近、ファッションアイテムの一つとしてバイクをとらえる傾向が高まったこともあり、店舗も明るく洒落た雰囲気へとこの7月にリニューアルを行った。

立地 福岡市中心部・天神から西へ約3キロほど行った幹線道路沿いに位置する。国道202号線から別れた道沿いで交通量が多く、また目の前がバス停であり、車や歩行者からの視認性はかなり高い。周辺はマンションや学生向けのアパートが建ち並ぶ地域で、駐車場には限りがあるた

め、市内中心部へは距離的にむしろ自転車やスクーターなどの移動手段の方が便利という向きもある。近くの九州大学教養部を始め、大学が多い街だけに周辺には競合店が多い。

店舗 マンションの1階部分を店舗としており、事務スペースを含めたショールームは約45坪。また、見せることを意識した約15坪のサービス工場は店に入って右手にあり、外からはサービス工場の存在が分からないのだが、それがかえって洒落た店舗演出に一役買っている。

商圏 周辺の学生をメインターゲットとするため、店舗から半径約5キロが商圏の中心だが、福岡市内はもちろん、久留米市や北九州市などの周辺市町村からの客足もよい。最近では二輪専門誌に出したショップオリジナルカスタムの広告が人気を呼び、遠くは大阪や東京からの問い合わせが増えている。



販売・客層 学生を中心とする10代・20代の若者が客層の中心を占めるため、カスタム車両の需要が多い。あわせて、販売におけるスクーター比率も5割と高い。特にスポーティなスクーターよりも、アプリオやビーノといった車種に人気があるようだ。学生が4年で入れ替わることから新規顧客が多い店舗でもあるが、リニューアルして気軽に入りやすい雰囲気が高まり、家族連れのお客さまも増えている。今後は、全体の2割ほどは知らない女性客をもっと掘り起こしていきたいと考えている。

スタッフ 左から富松和博店長、メカニックの柴山勉さん、江島光さん、徳安隆さん。



展示モデルのほとんどがマジスティやTW、SFなどのカスタムベース車両。近くに姉妹店のYSP友景があるので、ターゲットに合わせた商品ラインナップの絞り込みが可能だ



カスタム車両には分かりやすいよう
コンプリート価格を表示



店のオリジナリティ創出のため、最も力を入れているのがカスタム。特にMDステレオを装着したマジスティは音楽好きな若者の心をとらえ、人気を呼んでいる

学生が多い環境にあつて、若者の流行を機敏に読みとり、いち早くその感覚を取り入れてきたYSP大塚さん。ファッションアイテムのひとつとしてバイクを見なす傾向が強まっている現状を受け、店舗を含めトータルでおしゃれ感を色濃くしたバイクライフの提供を始めた。

ショールーム

床と腰壁に木材を使用した温かく洒落た雰囲気の店内。内装材に木材をふんだんに用いたのに合わせて、壁も濃い目のベージュ系でまとめた。サービス工場へ車両の出し入れなどがあるため、耐久性や汚れ付着防止などを考慮し、入口付近の床はコンクリートで土間風に仕上げている。また水銀灯の数を増やして店の外からでも奥まで見通せる明るさを確保。客層の中心を占める若者たちがよく足を運ぶブティックや雑貨屋のような感覚にこだわった。



ただガラス張りして作業を見せるのではなく、ツールを用意し、待ち時間を気持ちよく洒落た雰囲気でも過ごせるように配慮している

サービス工場

ショールームとは腰上からガラスで仕切られたサービス工場。修理や点検待ちのお客さまはバーカウンターに座り、くつろぎながら作業を見ることができる。お客さまにとっては安心感に、一方、作業を行なうスタッフにとっては見られることによる緊張感が作業スピードのアップに繋がっている。また同時に、見せることを意識するので、工場内の整理整頓にも効果があるという。



最近の若者はバイクに対する知識や認識が不足しがち。そこで、少しでもバイクへの興味の喚起になればと、納車時や修理・点検時に各部の詳細を説明してから引き渡しているそうだ

サービス工場内の整理整頓は見た目はもちろん、作業効率の向上にも繋がる



接客スペース

店内の正面奥にカウンターがあり、お客さまの動きはスタッフには十分見えるが、お客さまには気にならない、絶妙な距離感がある。ヘルメットやパーツ類を展示する什器も木製で統一し、トータルでスタイリッシュな演出を心がけている。「若いユーザーにとっては、ファッションの一部と化しているバイク。洒落た感覚をショップ全体で演出し、まずはバイクライフの足がかりを作る。それをバイクとの付き合いを深めるきっかけに結びつけたい」と富松店長。

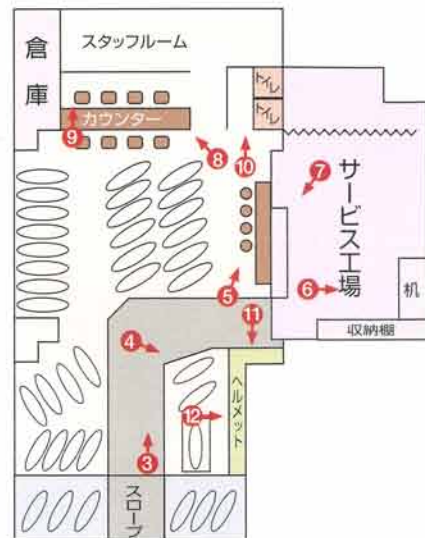
顧客管理をはじめ、中古車の検索を行なうなど、商談時に話をスムーズに進めるツールとしてもコンピュータを活用



リニューアル以前に使用していた什器類はステンレス製のものが中心だったが、リニューアル後は店内の雰囲気を損なわぬよう全て一新した



ユーザースタイルに合わせて選べるだけのカラーバリエーションを豊富に取りそろえている。もちろん展示方法もアパレルショップを意識



YAMAHA Monthly Calendar

10月 ▶▶▶ 11月

- セールスプロモーション
- 普及イベント
- 新商品


- イベント・キャンペーン
- モータースポーツ

☆=数字で示したページに関連情報があります。

11 【ヤマハ関連】

● ~11/30 YZ450F・250Fスベアホイール期間限定販売キャンペーン

● ~11/23 パリダカへの挑戦展/コミュニケーションプラザ



● 11/1 M125YZ・M85YZ
(レーシングカート) 発売 ☆3


- 11/3 親子バイク教室/SUGO
- 11/4 ヤマハオフロードスクール/名阪スポーツランド
子どもバイク教室/SUGO
- 11/9・10 ヤマハオフロードフェスティバル/SUGO
- 11/12 ステップアップキッズスクール/SUGO
- 11/17 チャレンジオフロードフロンティア/香川スポーツランド
TIキッズバイク/TI英田
- 11/24 ヤマハオフロードスクール/成田MXパーク
ファンキーエンデューロ/プラザ坂下
員弁シリーズカップエンデューロ/ダイイチ
- 11/24・25 SUGOレーシングスクール2DAYS/SUGO
 - 11/25 2003TZ250 発売

● 12/8 チャレンジエンデューロ宮城シリーズ/SUGO
員弁シリーズカップエンデューロ/ダイイチ

● 12/27 トレストレホン、エムズ運用終了 ☆6

11 【社会・業界】

- 11/3 少年少女モーターサイクルスポーツスクール/茨城
- 11/3 Moto GP第16戦/バレンシア ☆4・7



- 11/17 少年少女モーターサイクルスポーツスクール/広島
- 11/22~24 2002東京国際自転車展/東京ビッグサイト

